

「書く力」をつけるN I E活動

宮崎日本大学中学校
教諭 藤 井 雄 基

(1) 学習のねらい

昨年度、本校の生徒はN I E活動を実践していく中で新聞を通して文章を「読む力」文章の中から伝えたいことを「読みとる力」を身につけることをねらいとし、実践することができた。

さらに今年度は新聞の記事を読み、その記事を読みどう思ったか、自分だったらどうすることができるか、などの感想文・意見文を「書く力」を身につけることをねらいとした。

現代はインターネットの普及、子供たちのモバイル所持といった情報社会の中、自らが情報の発信者となる機会も多くなってきた。

また入試制度の多様化により、一問一答形式ではなく、自分の考えを文字にして小論文を書くことも増えてきた。

だからこそ今回の活動を通して少しでも「書く力」を身につけさせ、「生きる力」とともに「自分の思いを言葉にする力」を身につけさせたいと思いねらいとした。

具体的な活動として時事問題をテーマとし筆者の主張も述べてある各新聞のコラムを活用した。

(2) 学習の流れ

a コラムを読み、新聞に興味を持つ

- * 新聞記事を読み新聞に興味を持つ
- * 言葉の意味を調べる
- * 感想文と意見文の違いを捉える。
(2年・3年生)



b 新聞コラムを活用することで、取り上げられた記事や書き出しの仕方、文の構成や表現に注目する



c 自分たちで意見文を書き、人の書いた意見文に対して討論し、考えをまとめ文章にする。

※ 参考 昨年度の学習

a コラムを読み、新聞に興味を持つ

- * 言葉の意味を調べる (1年生)
- * 意見文を書く (2年・3年生)



b 新聞記事を活用することで、新聞に慣れ、新聞のレイアウト、文字の使い方を考える。取り上げられた記事に注目する



c 自分たちで取材してクラス新聞を作成し、発表する

(3) 実践

6月 開始 導入

目標を生徒に提示する。

・「言葉を知り、記事に対する自分の意見をまとめられるようにしよう。」

・そもそもコラムとは何かを実際の新聞を使って説明をする。

・「感想文」と「意見文」の違いを評論文（『批評』の言葉をためる」竹田青嗣）を用い、説明する。



・事前に生徒に書かせていた意見文を例に出し、意見文にするにはどうすればよいかを各グループに分け、話し合わせる。

・再びグループに分け実際の新聞記事を読み、意見文をまとめ発表させる。

・コラムや意見文について理解をさせた段階でこれからの活動の説明を生徒に伝える。



7月 コラムに触れる 展開

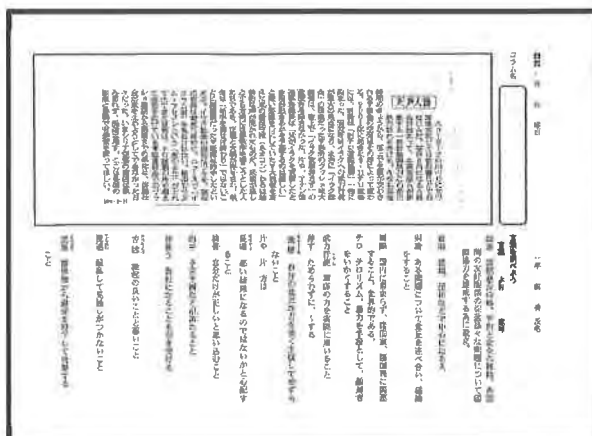
学年ごとに課題を実践させる。

・まずは各学年のレベルに合わせ課題を用意する。

1年生・・・コラム内の意味調べ

- ・くろしお
- ・余祿
- ・天声人語
- ・春秋
- ・編集手帳

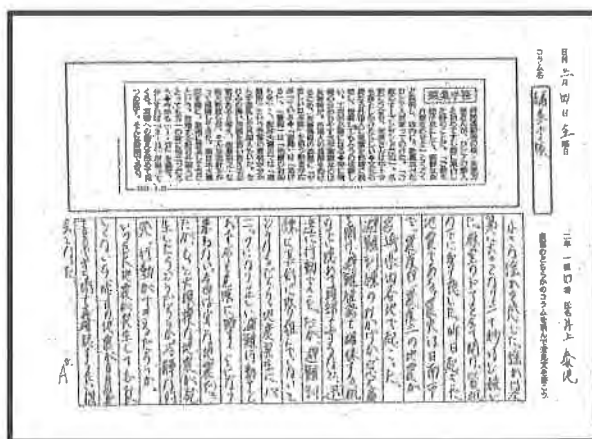
1年生用コラム教材↓



2・3年生・・・コラム感想文

- ・くろしお
- ・余祿
- ・天声人語
- ・春秋
- ・編集手帳

2・3年生用コラム教材↓



記事に対する意見文を書かせる。

・全学年に対して毎週金曜日の7時40分～8時10分の30分間で記事を読みその記事についての自分自身の意見文を書かせる。

意見文例紹介 選挙権の記事について

生徒意見文例①

中学二年生女子

選挙権が二十歳から十八歳になった。
政府は「若者にも政治に関心を持ってもらいたい」として選挙権の年齢を引き下げたそうだが、私は引き下げても投票率は特に上がりず政治に関心をもつ若者も増えることはないと思う。

十八歳。今までにこの年齢の多くの人が人生を左右されたであろう。自分の進みたい道に向かって多くの人が勉強をしている年齢だ。こんなときに政治の仕組みについて勉強できるからいいじゃないかという人もいるが、私はそうは思わない。誰がどんな考えを持っているのかを調べ、自分はどの人に考えが近いかを考察し、投票に行き帰ってくる。のんびり屋の私にはどれほどの時間が奪われるかと思うとぞっとする。かといって適当に決めることもそれはそれで怖いことだ。

だからこそ私は選挙について考えるのも投票をするのも二十歳からで十分だと考える

生徒意見文例②

中学二年生女子

「選挙に行かない親の子どもが選挙に行くとは思えない」私も以前からそう思っていた。詳しく言えば「選挙に行かない大人を見て、子どもが行くわけがない」だ。私はもし、アンケートで「投票に行きたいか」と問われれば、もちろん「はい」と答える。なぜなら大人になった証と思って嬉しいからだ。今選挙に行かない大人だって人生で初めての選挙には行ったと思う。むしろ行ってみたはずだ。でも今はどうだろう。「面倒だから」といっていない大人が半数である。これはダイエットに似ていると思う。はじめは気合が入るが途中から「あんまり変わらないな」と面倒になって「もういいや」となる。ただダイエットは個人の結果だが、選挙は国民の結果となり、簡単には元に戻すことは出来ない。色々な問題を起こす政治家をみて大人たちは「まったく今の政治家は」という。しかしその議員を選んだのは大人たちだ。子供としていいたい。「まったく選挙に行かない今の大人たちは・・・。」

活動を終えて

活動を始めた当初は「コラム」を読むことすら難しいと感じていた生徒が大半であった。しかし活動を通していく中で、生徒達はコラムを記事に対する「解説書」と位置づけ、記事内容もしっかりと読み理解するようになった。今回の活動は「書く力」を身につけることをねらいとしていたが、同時に読み込むことの大切さも生徒達は学んでいた。

また、この活動を通して、「コラム」の文章表現・ユーモアを交えた文章を真似て、日本語のおもしろさ、過去の出来事への関心が高まったように思える。生徒の書いた意見文の中には大人が読んでもうなるほど納得のいく文、ユーモアを交えた文が書けるようになり、将来の目標とする生徒もでてきた。これからも「NIE活動」を通して「読む力」「書く力」を身につけさせるとともに、「生きる力」を育みたい。

7月30日の宮日新聞に
本校の取り組みが紹介され
ました。

←